

ヒマラヤ国際映画祭TOKYO2010

報告書



NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン



目次

はじめに...	p.3
映画祭 開催概要...	p.4
体制・活動概要...	p.5
動員結果&会場アンケート...	p.6
メディア報道...	p.8

はじめに

「ヒマラヤ国際映画祭TOKYO2010」は、2010年11月19日（金）～21日（日）にかけて東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われた。日本における同映画祭の開催は今回で4度目となった。



ヒマラヤ関連のドキュメンタリー21作品の上映に加え、インド・ネパール・ブータンより監督たちを招いてのQ&A及び国際シンポジウム（「ヒマラヤから現代社会を問う」）を行った。地元の知識人による現地リポートは観客の高い関心を引き出したようだ。

又、映画祭会場は、ヒマラヤ関係団体のブース、辺境旅行ツアー大手のアルパインツアーサービスの案内所、そしてタンカ絵師・田上操さんによるチベット仏画の展示などで彩られ、ヒマラヤの雰囲気を感じ出していた。



来場者は三日間で延べ約1100人。残念ながら当初の予想を下回る結果とはなったが、様々な世代からなる参加者の映画祭に対する満足度は高く、開催の意義はあったと考えている。今回も、各国の映画監督を初め、主催団体であるヒマラヤ・アーカイブ・ジャパンのスタッフ、ボランティアスタッフ、関係各位等、様々な方々にお世話になった。改めて感謝の意を表したい。

開催コストの問題や収益の伸び悩み等、ヒマラヤ国際映画祭を今後継続していく上で克服しなければならない課題は山積している。しかしながら、「ヒマラヤ」が有する現代的価値、マスメディア（TVメディア）でのドキュメンタリー放映枠が年々短くなっていき而もミニシアターが相次ぎ閉館している現状を考えると、映像文化を育て、独立して困難



なテーマに取り組む映像作家を応援する意味でも、このような映画祭を存続させる意義は大きい。何より、沢山の観客の方々の「継続して開催して欲しい」との真摯なリクエストを無視出来ないであろう。何とか課題を克服しながら、次回開催の機会を窺いたい。併せて、皆様方

のご協力を心よりお願いする次第です。



NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン

1. 映画祭 開催概要

(1) 概要

- ・ 開催時期：2010年11月19（金）日～11月21日（日）
- ・ 会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター（カルチャー棟小ホール）
- ・ 主催： NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン
- ・ 後援： ネパール大使館、オランダ王国大使館、日本ネパール協会、日本ブータン友好協会
- ・ 協力： ヒマラヤ・アーカイブ・ネーデルランド、国際交流基金（ジャパンファンデーション）
- ・ 協賛： アルパインツアーサービス株式会社
- ・ 公式サイト：<http://www.himalaya-japan.net/hfft10/>

(2) プログラム

- ・ ドキュメンタリー映画上映（21作品）
- ・ 国際シンポジウム（”ヒマラヤから現代社会を問う－世界の矛盾とヒマラヤ文化の役割と可能性”）
- ・ チベット仏画（タンカ）展（田上操 絵師）

(3) 料金設定とチケットの種類

- ・ フリーパス：前売3,500円（当日は寄付受付として4,000円）
- ・ 映画1セッション（1～2本）及び国際シンポジウム：前売1,200円（当日は寄付受付として1,500円）

2. 体制・活動概要

(1) 事務局

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6

Tel/Fax: 03-6671-2181 Mail: haj@himalaya-japan.net

(2) 主催、後援、協力、協賛、スタッフ

＜主催＞ NPO法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン (HAJ)

＜後援＞ ネパール大使館、日本ネパール協会、日本ブータン友好協会、オランダ王国大使館、

＜協力＞ヒマラヤ・アーカイブ・ネーデルランド、国際交流基金（ジャパンファンデーション）

＜協賛＞アルパインツアーサービス株式会社

＜HAJスタッフ＞

田中邦彦（代表）／ 鵜明浩（副理事）／ 木村雅也（理事）／ 木村登喜子／ 溝口丈／
安藤千景（広報）

＜ボランティアスタッフ（敬称略）＞

田上操（広報、チベット仏画展示）／ 三輪ゆう子（広報物デザイン）／ 塩田紗智子（通訳）
／ 吉田真理恵（通訳・翻訳）／ 大久保純子（受付）／ 井上志津子（受付）／ 清水章子
（受付）／ 羽川奈央子（受付）／ 伊藤彩（受付）／ 梅原富美夫（受付）／ 前田一樹（受付）

＜外国人ゲスト&日本人パネリスト（敬称略）＞

サンジェイ・バーネラ／ ドウルバ・バスネット／ ウゲン・ワンディ／ 南真木人／ 辻村優英

■ 活動概要：

(1) ドキュメンタリー映画上映（21作品）：

□ 新作2本（『エベレスト-平和の頂』『ヒマラヤの匠』）、招待3作品（『花嫁の峰 チョゴリザ』『稲妻の証言』『ナーガ族の叫び』）及び以前の開催で評判の高かった16本の合わせて21本を12プログラムに分けて上映した。

(2) 国際シンポジウム（国際交流基金 助成事業）：“ヒマラヤから現代社会を問う-世界の矛盾とヒマラヤ文化の役割と可能性”

□ この活動は、“ヒマラヤ地域より地球を考える”を趣旨とする「ヒマラヤ国際映画祭TOKYO 2010」の開催に併せて行われた国際シンポジウムである。ヒマラヤ地域諸国（インド、ネパール、ブータン）からの映画監督、ジャーナリスト、映像作家及び日本人学識経験者を交えて、ヒマラヤが映し出す地球温暖化、環境破壊、伝統と近代化を巡る葛藤など世界の共通課題とそれに対する彼の地域の有する文化の役割について考えた。

* パネリスト・コーディネーター（順不同／敬称略）：

ドウルバ・バスネット（ネパール／ジャーナリスト）

サンジェイ・バーネラ（インド／ドキュメンタリー映画監督）

ウゲン・ワンディ（ブータン／映像作家）

南真木人（国立民族学博物館 准教授）

辻村優英（高野山大学研究員 宗教社会学者）

田中邦彦（ビデオジャーナリスト） * コーディネーター

3. 動員結果

延べ1、116人

*人気作品ベスト3：『思いを運ぶ手紙』『チベット難民』『ブータン-幸福への中道に行く』

4. 会場アンケート（一部）

◇三日間通いました。日本のメディアではあまり見られない地域の情報や映像がいっぱい、とても興味深く引き込まれて拝見しました（50代 女性）

◇このような映画祭があることを今年初めて知りました。とても良かったです。ロビーで展示されていたタンカも素晴らしかった!!（30代 女性）

◇地球の平和、世界の平和が一人一人の平和につながる平和のメッセージを届ける貴重な映画祭だった。どの映画も訴えるものがあり、感動する素晴らしいものでした。近代化の進んだ日本にいて、私達が無くしていく人間の本質的なものの大切さを痛感します。チベット・ネパール・パキスタン・インドの問題が地球全体の大事な環境や民族、文化の諸問題だと考えて、一つでも自分達も行動しなければと思いました。本当に有意義な三日間でした。どうも有り難うございました。（60代 女性）

◇それぞれ力作です。現実は厳しいですが、最後に希望が見えるのが、観客としては嬉しいです。もっと見たかったです。次回も来たいです。（60代 女性）

◇ここでしか見られない作品ばかりで、どれも印象に残った。（20代 男性）

◇ヒマラヤ地域の映画を観たり、監督の話を聞く機会は皆無だったので、非情に興味深い。
（20代 女性）

◇山に興味があり、山の映画を中心に見に来たのですが、特に印象に残ったものは、チベット問題とブータンのGNHでした。今まで良く知らなかったことが多かったので、この機会に色んな側面からヒマラヤを知ることができました。（20代 男性）

◇「ブータン・幸福への中道に行く」を観ました。今まで自分は幸せだと思っていましたが、頭をガツンとたたかれたようでした。ブータンには幸せが根付いており、私たちも彼らを見習うべきだと感じました。国民の方達が語っていることにただただうなずくばかりでした。（40代 女性）

◇たいへん興味深い内容の作品が多く、その割に入場者数が少ない事が気になりました。PRの努力をお願いします。また、見逃してしまう作品もあり、可能なら、会期の延長を願っています。人の本来有るべき姿、本質について感銘を受けた。（70代 女性）

◇本当に貴重な作品をありがとうございました。日頃の暮らして意識の中心から外れている様々な状況を目の当たりにさせていただきました。もっと多くの方に見るチャンスを拡がることを切に願っております。
（60代 女性）

◇日常生活では得られない知識を得ることができ、本当に貴重な時間を過ごすことができました。これからこの種の問題に対して、考え、行動に移すきっかけをいただき、方向性を示してもらえました。私自身からも身の回りの人に話していきたいと思います。もっと多くの日本人にこの現状が伝えられる場が設けられることを願います。本当にありがとうございました。（30代 女性）

◇登山が好きで、ヒマラヤも「山登り」という対象で興味があり、今回も映画祭の「ヒマラヤ」に飛びついて参加しましたが、紛争、環境破壊、信仰などあまり知らなかったヒマラヤを映画から学びました。ありがとうございました。（30代 女性）

◇盲目のクライマーを見ました。非情に感動的でした。自分たちがすぐに限界を見てしまう体質になっていることを強く考えさせられる内容でした。チャレンジ精神という言葉だけでは言い表せないものを感じました。ぜひこれからもこのような良質な映画を上映してください。（40代 男性）

◇戦いなど如何にむなしいか、世界中が気付いて建設的な方向に向って欲しい。この映画がささやかでも気付かせる一つになることを願っている。（70代 男性）

◇大変な資料の字幕づけ、おつかれさまでした。素晴らしい3日間でした。サンジェイさんの作品をもっと見たくなりました。（30代 男性）

◇大変力強いイメージを喚起する力がある映画でした。たくさんのことを考えさせられました。（40代 女性）

◇有意義な三日間を過ごすことが出来ました。ブータン、トレッキングなど行ってみたくまりました。ありがとうございました。（60代 女性）

◇感動しました。ありがとうございました。世界では知らないことが沢山あり、もっと若い世代にもPRが必要かも。（70代 男性）

◇ヒマラヤの光と影に理解を深めることができた。（60代 女性）

◇ネパールやパキスタンの山へトレッキングに行こうと思い、そのエリアを知るために今日映画祭に足を運んだのですが、知らないことばかりの世界でした。考えさせられる映画に出会えたことに感謝します。（60代 男性）

◇素晴らしいディスカッションを聞けてよかったです。（20代 男性）

5. メディア報道

【新聞】

- 映像新聞（2010年11月1日）：映画祭及びシンポジウムの紹介
- 日本経済新聞夕刊（2010年11月6日）：映画祭全般の紹介

【雑誌&ウェブ】

- [VOGUE.COM](#)（2010年11月10日）：映画祭全般の紹介
- 週刊金曜日（2010年11月12日）：映画祭全般の紹介
- 岳人（2010年11月号）：映画祭の案内
- 山と溪谷（2010年11月号）：映画祭の案内

【ラジオ】

- SHIBUYA-FM（2010年11月9日）：映画祭及びシンポジウムの紹介
* 主催団体（ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン）代表 生出演
- [TOKYO FM ブルーオーション](#)（2010年11月15日）：映画祭及びシンポジウムの紹介
* 主催団体（ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン）代表 生出演
- Inter FM GREEN STATION（2010年11月20日）：映画祭全般の紹介

【テレビ】

- [テレビ朝日 スーパーJチャンネル](#)（2010年11月19日）：映画祭全般の紹介